

五十年後の礎を

大日本武徳会副理事長 中田 武太

戦前を含めると一一七年の歴史を数えますが、大日本武徳会創立五十周年記念武徳祭並びに第四回世界武徳祭が四月二十八日・二十九日の両日盛大に挙行されました。

今回の大会は五十回という節目の記念大会ですから、第四回の世界大会も組み入れて大々的な記念大会にしようとする常任理事会で決め数年前から準備をして参りました。国内外の会員諸氏や関係者のお蔭をもちまして大成功裡に終えることが出来ましたことに常任理事会の委員の一人として厚くお礼を申し上げます。

植樹式、石碑・銘板の除幕式、開会式、前夜祭、平安神宮祈願祭、本大会等や、二十八日・二十九日の本大会の前後を挟んで行われた国際支部の講習会と練成大会、懇親パーティ等はそれぞれ記念大会に相応しい意義深く印象深いものであったことに言を俟ちません。

しかし、遠く外国の二十二か国からやってきた三百五十人の国際支部の会員諸氏と、国内の二百五十人の参加会員諸氏が心から満足を得た記念大会だったろうかを反省してみた時、課題がいく

つか見えて来て忸怩たる思いにかられます。この課題を解決してこそ次の大会、そして武徳会の将来の発展に繋がる鍵ではないかと思ひ私なりに問題を提起致します。

一、日本側（本部役員を含めて）は外国人に対し心からの対応が出来たか。

二、武徳殿での本大会の他の行事に対して日本側の参加が十分だったか。

三、外国人に対して武道者としての礼節を範で示せたか。

四、本大会が節目の記念大会であることに特別意識を持つて臨んだか。

五、本部の大会運営は十分に果たせたと思うか。

六、大会ルールを熟知してしっかりと遵守できたか。

七、各行事の運営上の改革点は何か。

八、武徳会の未来的展望について意見は何か。

九、その他

次の五十年の礎を築くために、来年の第五十一回武徳祭から改革すべきところは改革して実践しなければなりません。そのためには先ず何をすべきか、最優先課題は何か。先生方の忌憚のない率直なお考えを聞かせて頂きたいと思ひます。是非本部までご意見をお寄せ下さい。

